

<健康・安全指導部会 健康・食育チーム>

【児童生徒の実態】
・基本的な生活習慣が定着している児童生徒が見られる一方、就寝時間が遅くなり、生活習慣の乱れへとつながっている児童生徒も少なくない。就寝時間が遅くなることで朝起きられず、朝食欠食につながっている児童生徒の割合が数年前から増加傾向にある。また、コロナ禍における黙食などの影響から、食習慣や食文化、マナーへの関心が乏しくなっている。
【部会のねらい】
・生活習慣の基本である「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、また、食への関心を高めることで、心身共に健康で自分を大切にすることができるようにする。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	・立腰、SNSの正しい使い方の啓発 ・長期休業明けに生活習慣見直しweekの実施（生活習慣チェックシートを活用し、生活習慣の改善を図る） ・ほけんだよりに小中一貫コーナーを設け、家庭への生活習慣改善の呼びかけ ・食育（食事のマナー）・朝ごはんの大切さについて、給食時に校内放送の実施 ・朝食アンケートの実施 ・教職員の食育（給食指導）についての意識向上の取組
成果	・定期的な情報発信により、家庭への意識付けを行うことができた。 ・立腰指導の実施により、時間を守る意識も高まった。 ・食育に関する掲示物や動画は視覚的に有効であり、意識の向上につながった。また、発信を月ごとに各校で当番制にしたことで、内容についても分担することができ定期的に実施することができた。 ・職員への呼びかけを実施することができた。
課題	・生活習慣見直しweekの評価方法について、改善が必要である。 ・給食指導については呼びかけやお願いはできているが、どこまで実施されているか不透明な部分があった。また、クラスや職員個人での温度差が生じてしまった。

立腰の様子



食育指導

